

◆新技術定着試験

イバラノリ養殖試験（海藻類養殖試験）

八重山支庁農林水産整備課 中村勇次

1. 目的

竹富町西表島では、イバラノリをサラダ等で食用に利用している。しかし、これらの海藻は天然物に依存しているため、季節的な変動があり安定して利用されてはいない。地元漁業者からの要望もあり、南風見崎東沖では平成20年9月1日付けでイバラノリひび建て式養殖の漁業権が免許された。よって、漁業権内においてイバラノリの養殖試験を行うことにした。

2. 材料及び方法

天然物のイバラノリを採取し、これをロープに挟み込んでから養殖する「挟み込み法」とモズク網の節に固定する2つの方法により試験を行った。

3. 結果及び考察

12月3日に西表南風見崎東沖のイバラノリ養殖漁業権の位置確認と漁場調査を行った。時期が早く、漁業権内にはイバラノリは確認できなかったが、仲間川南東沖の浅瀬にイバラノリが繁茂していた。

1月27日にイバラノリ養殖試験を開始した。漁業権内にイバラノリが少ないため、前回確認した仲間川南東沖の浅瀬でイバラノリを採取し、ロープに挟み込んでから漁業権内の鉄筋に張り込んだ。鉄筋の間隔は5mで、イバラノリを挟み込んだロープをN字型に張った。後日、漁業者がイバラノリを挟み込んだロープを追加した。

5月1日にイバラノリ養殖試験調査を行った。前回1月に挟み込んだイバラノリは、波浪の影響で切れてしまったので、再度漁業者が挟み込みを行ったとのこと。確認したところ挟み込みを行っていたロープにはイバラノリがまったく残っていなかった。付近にもイバラノリは見られなかった。養殖場所から西

側の浅場ではイバラノリが大量に生息していたことから、漁場環境の違いなのかを確認するため、西側浅場付近で試験的に挟み込みを行った。

6月になって西側浅瀬で挟み込みを行ったロープでもオゴノリの消失がみられ、天然物がなくなってきていたことから、今期の試験は終了した。

4. 今後の課題

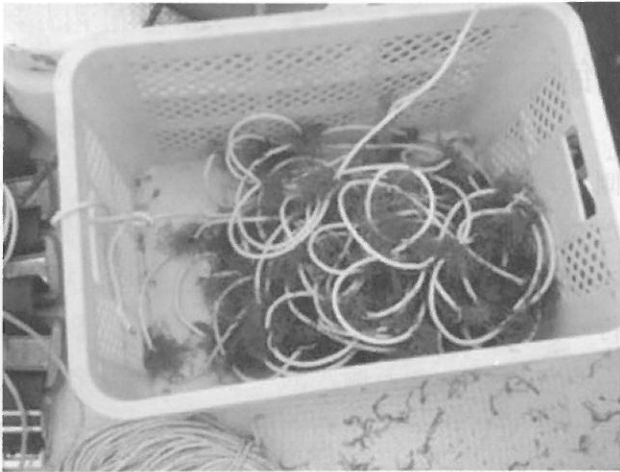
天然物を挟み込む今回の方法では、波浪により消失する現象が見られたため、その対策を検討する必要がある。また、人工採苗が可能であれば、培養種による種付けを検討したい。



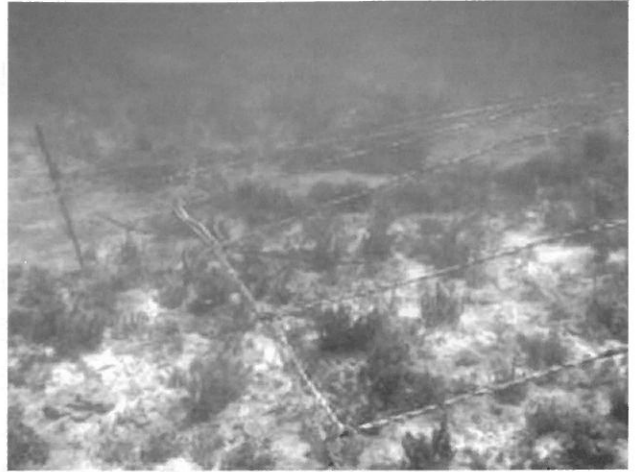
① 12月3日に南風見沖漁場を調査した



② 12月3日に仲間川南東沖で確認されたイバラノリ



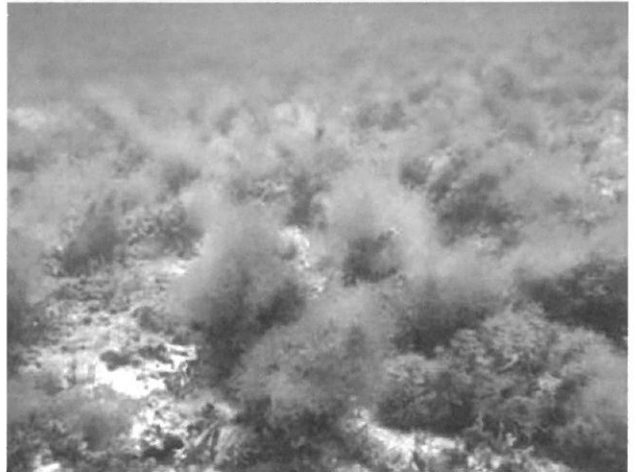
③ 1月27日に仲間川南東沖で採取したイバラノリをロープに挟み込んだ



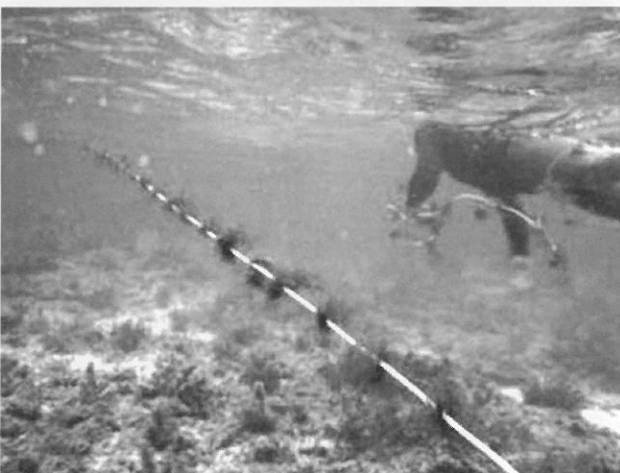
⑥ 5月1日にロープを確認したところイバラノリは見られなかった



④ 1月27日のロープ設置作業



⑦ 5月1日に養殖試験実施場所の西側にイバラノリが大量に繁茂していた



⑤ 1月27日のロープ設置作業